

2020年1月21日

主催：

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構（農研機構）

内容：

戦略的プロジェクト研究推進事業「農業分野における気候変動適応技術の開発」

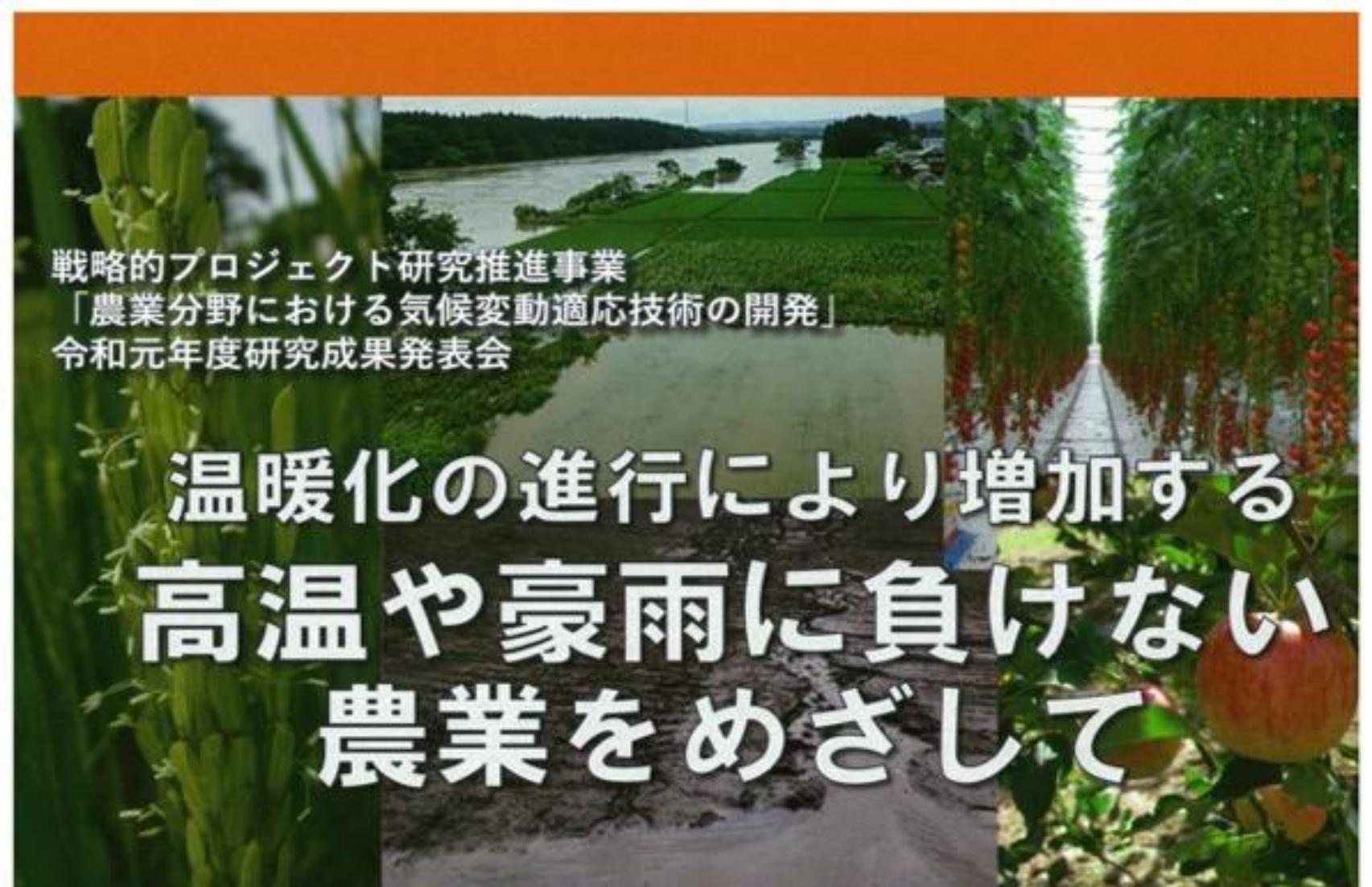
令和元年度研究成果発表会～高温や豪雨に負けない農業をめざして～

参画テーマ：

内閣府官民研究開発投資拡大プログラム PRISM

気候変動対策プロ（豪雨対策）コンソーシアム共同研究

「農村地域における気象災害の発生リスク予測技術」



戦略的プロジェクト研究推進事業
「農業分野における気候変動適応技術の開発」
令和元年度研究成果発表会

温暖化の進行により増加する 高温や豪雨に負けない 農業をめざして

2020年1月21日(火)

13:00-17:00 (12:30 開場予定)

会場

つくば国際会議場 (エポカルつくば)
茨城県つくば市竹園2-20-3

主催

国立研究開発法人
農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)



農村地域における気象災害の発生リスク予測技術

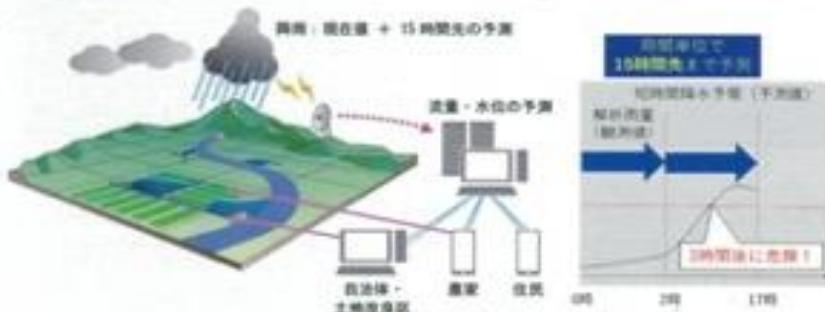
農研機構 農村工学研究部門、北海道農業研究センター、岡山大学、
サンスイコンサルタント(株)、アドバンスソフト(株)、
アカデミックエクスプレス(株)、(株)アイ・クエスト

集中豪雨による冠水・洪水、土壤流亡による被害の軽減のため、農業者と地域が素早く簡単にできる被害軽減対策を併せて開発しました。

開発した対策の実施・運用を支援するため、農村地域における水利施設の管理者、住民を念頭に置いた公開型気象災害リスク評価ツールを開発しました。

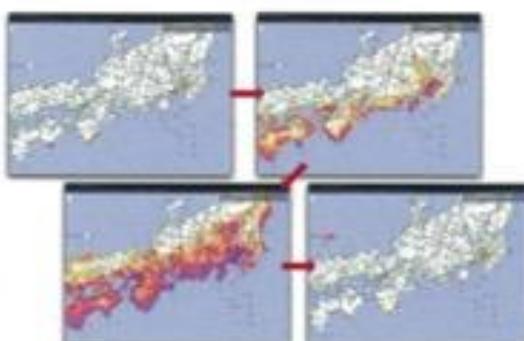
1 課題の概要

- 低平農地の湛水と畑地の土壤乾燥という二つのリスクについて、気象の現況値および予測値に基づいて評価するものです。
- さらに、これらの予測情報をリアルタイムで公開するウェブサイトを構築します。



2 低平農地の湛水リスク

- グリッド型の水文モデルによって計算される河川流量および降水量とともに、過去の湛水履歴から設定した閾値により湛水リスクを評価します。



3 畑地の土壤乾燥リスク

- 畑地の土壤乾燥リスク評価には、メッシュ農業気象データおよび畑地土壤の乾湿推定モデルにより今後一週間程度の土壤乾湿状態を予測します。



● 普及・社会実装への道筋

- 実証試験地(北海道、秋田、福岡、新潟)において精度およびウェブサイトのインターフェイス・機能を検証します。
- 農家、水利施設の管理主体へ普及するため、マニュアルを整備します。